



EX-PRESS

EXtra, EXpert and EXtreme

2006 Vol.
1



Photo by H.Wakita(c)

波乱の2006年シーズン、いよいよ開幕! ヨシムラとホンダドリームがフロントロウを分ける。

約半年のシーズンオフを経て、2006年シーズンがツインリンクもてぎで開幕した。すでに報道されているように、今年はいくつか大きな変化があり、注目すべきポイントが多い。まず、昨年のチャンピオン、伊藤真一がKEIHIN Kohara R.T.という新しいチームから参戦することになった。独自のチームを立ち上げ、また新しいスポンサーを得て、タイトル防衛をねらう。マシンはホンダ、タイヤはブリヂストンで変わらず。

一番大きな動きは、昨年の後半戦から参戦を開始して注目を浴びた秋吉耕佑(ヨシムラスズキwithJOMO)とスズキのエース渡辺篤(ヨシムラスズキwithJOMO)のコンビが、タイヤをダンロップからブリヂストンに換えたことだ。昨年は、チャンピオン伊藤をはじめ、ホンダ&ブリヂストンの組み合わせが強かった。ダンロップは苦戦を強いられていたのだ。そのダンロップとヨシムラが決別を果たした。これは事件と言える。開幕戦でのヨシムラの二人には注目が集まる。新人の抜擢もある。SBKに参

戦を開始した中富伸一の後任としてヤマハトップライダーの重責を担った中須賀克行(YSP&PRESTOレーシング)、ホンダドリームチームに抜擢された徳留和樹(ホンダドリーム無限RT)の二人は、これまで以上の体制でレースに参戦することになる。こういうきっかけで、大化けするライダーが、これまでも大勢いた。彼らの今シーズンにも注目だ。開幕戦ということもあり、木曜日からフリー走行が組まれ、開幕の熱は徐々に高まっていた。金曜日のフリー走行では伊藤が転倒、大事には至らなかった。

土曜日、エイプリルフールの4月1日、予選が午前・午後の2回行なわれた。午前中の予選1回目ではヨシムラスズキwithJOMOの2人が絶好調。トップタイムを渡辺が、2番手のタイムを秋吉がたたき出してヨシムラスズキがワンツー。渡辺は1分50秒995と、唯一1分50秒台をマークする。ホンダドリームチームは3番手に徳留、4番手に山口辰也とスズキに一步、遅れをとった。

午後の予選2回目。早々に秋吉が1分50秒961と渡辺の1回目のタイムを上回るタイムをマーク。しかし渡辺は秋吉に負けずに1分50秒852と、さらにタイムを縮めてきた。山口も自己タイムを更新するが、1分51秒415と、徳留の前に出たものの、ヨシムラスズキチームには届かない。予選も残り5分を切ったところで山口に続く1分51秒472と4番手のタイムを出したのが中須賀。しかし残り3分を切ったところで徳留が1分50秒947と、ヨシムラスズキの二人の間に割って入り2番手のタイムをマーク。山口も自身のタイムを縮めるが、1分51秒022と1分51秒の壁を越えることができず4番手タイム。そしてチェッカー。ヨシムラスズキの渡辺がポールポジション、ホンダドリームの徳留が2番手、ヨシムラスズキの秋吉が3番手、ホンダドリームの山口が4番手と、ヨシムラスズキ、ホンダドリームが順番にフロントロウに並ぶことになった。

[青木 淳]



楽しみ方いろいろ。
MFJ SUPERBIKEの情報満載

2006年もGAORA (CS放送) で全戦放映!!
地上波ローカルTV局ではダイジェストを放映!
レース速報はMFJオンラインマガジン mfj.or.jp
情報満載のファンサイト superbike.jp へ!!

TIME TABLE Rd.1 MOTEGI

10:05 -	GP125 スタート進行(選手紹介)
10:20 -	GP125 決勝レース 16Laps
11:10 -	ST600 スタート進行(選手紹介)
11:25 -	ST600 決勝レース 18Laps
12:20 - 13:15	ピットウォーク
13:30 -	GP250 スタート進行(選手紹介)
13:45 -	GP250 決勝レース 18Laps
14:40 -	JSB1000 スタート進行(選手紹介)
14:55 -	JSB1000 決勝レース 20Laps
16:05 -	GP-MONO 決勝レース 8Laps

※上記タイムテーブルは、変更されることがあります。

速さを見せる安田毅史。 ダブルウインを狙う渡辺篤



木曜日の特別スポーツ走行から、今回、初めてJSB1000クラスとダブルエントリーする渡辺篤がキレのある走りを見せ注目を集めた。ゼッケン1をつける安田毅史は「篤さんと一緒に走る機会があったけれど、バイクもすごく速くてスリップストリームについても離されてしまう」とコメントしていた。今年は、スズキGSX-R600とヤマハYZF-R6がフルモデルチェンジ。そのポテンシャルを上げてきた。フロントロウには、4メーカーのマシンが並び、観る側からは、さらにおもしろいクラスとなった。

その中でポールポジションを獲得したのはツインリンクもてぎをホームコースにしている安田だった。予選2回目にコースレコードを更新する1分55秒926をマーク。「自分でもビックリした。去年、辻村さんが56秒フラットを出しているから、出てもおかしくないタイムだけど、自分が出すなんて」と本人も驚きのタイムだった。意外にも安田にとってこれが初ポールポジションだった。これに渡辺が続き、ST600クラスの初レースはセカンドグリッドから臨むこととなった。「600で十分なテストはできていないけれど、レベルが高いのでトップ争いをして楽しむだけです」と渡辺。ポールポジションを獲得したJSB1000クラスとダブルウインを実現できるか!? 3番手グリッドにつけた酒井大作は「アタックした周に遅いライダーにひっかかってしまったから、もう少しタイムを詰められたと思う。決勝は混戦になると思うので様子を見ながらいく」と慎重にいく構えだ。4番手の宮崎敦は、一週間前にテストで転倒。何とろっ骨が3本折れている状態ながら、ヤマハ勢でトップタイムをマークした。決勝はライバルはもとより痛みとの戦いになる。宮崎のチームメイトの沼田憲保は、左手首を骨折し今回は欠場。寺本幸司も予選1回目に90度コーナーで転倒。右膝の肉がえぐれてしまいドクターストップがかかってしまった。

レースは安田が主導権を握りそうだが、渡辺と酒井も確実にトップ争いに加わるだろう。18周先のチェッカーフラッグを真っ先に受けるのは果たして!?

[佐藤 寿宏]

写真(上):安田毅史 (下):酒井大作

ドライなら予選で抜け出た横江竜司が逃げる可能性が高い。しかし雨なら…



およそ半年間の沈黙を破り、いよいよMFJ全日本ロードレース選手権、2006年シーズンがスタートした。昨年チャンピオンの青山周平がGPへ巣立ち、今年もゼッケン1不在となったが、その穴を埋めるだけの実力者が転向組として顔を揃えた。その中には「日本GPにワイルドカード参戦するために転向した」というGP経験者の宇井陽一や、元全日本チャンピオンの秋田貴志ら百戦錬磨のベテラン、さらに20歳の濱本結基、18歳の小龍太、16歳の山崎郡、14歳の伊藤勇樹と若手有

望株が加わる。彼ら新規参入組を「GPやJSBを希望したが、どちらも実現できないことがわかってGP250でタイトルを狙う道を選んだ」という28歳にしてベテランの横江竜司に、18歳の高橋江紀とラタパー・ウィライロー、16歳の高橋巧ら伸び盛りの若手が迎え撃つ。

土曜の予選は好天に恵まれ、横江が2位以下を1.4秒引き離すタイムをマークしてライバルを圧倒、及川誠人、高橋巧が続き、宇井がフロントローを獲得して実力を証明した。小林が若手ルーキー最上位の5番手として続き、一方で「2006年型のバイクに試行錯誤している」という高橋江紀は7番手に留まった。全日本ルーキーの山崎は3列目のトップに並ぶ。なお昨年のGP125でトップを争った濱本はパーツ不足も影響して19位に沈み、金曜の練習走行までノーマル車ながら健闘していた最年少の伊藤は、ビクトリーコーナーで転倒して大腿骨を負傷し、決勝への出走は絶望的となった。

練習走行から予選を通じて横江のタイムが抜け出ていることから、決勝は横江が序盤から逃げる展開が予想される。しかし、あいにく日曜は天気の方が危ぶまれており、もし雨となればウェットを得意とする江紀がデビューウインを果たした昨年の開幕戦を再現する可能性もある。いずれにせよ、開幕戦が今シーズンの勢力図を紐解くために見逃せないレースとなることは間違いないだろう。

[川岸 健二]

写真(上):青山周平 (下):横江竜司

●MFJ SUPERBIKE EXpress執筆陣紹介●

[青木 淳] 『ライディングスポーツ』編集長。1982年から全日本の取材をしている。自らもレース参戦しているが、目標の全日本参戦はまだまだ先のことになりそう。鈴鹿8耐参戦経験もある45歳。

[佐藤 寿宏] 名前に“寿”があるため業界でのニックネームが“ことぶき”というめでたいフリーライター。全日本ロードレースは1994年の最終戦以来、ほぼ全戦を取材している。

[川岸 健二] ロードレース専門誌『サイクルサウンドス編集部』に籍を置き、全日本ロードレース取材は今年で7年目。「取材は足で稼ぐ」をモットーに、今日もムダ足を踏んでいる。

最多勝記録に挑む仲城英幸。 ティーンズライダーにも注目!



今年のGP125クラスは話題が豊富だ。まずチャンピオンの菊池寛幸がBATTLE FACTORYからのエントリーとなり、チーム体制が強化されタイトル防衛に臨む。5回のタイトルホルダーである仲城英幸も当然タイトル奪還を狙うが、チーム体制に変化があった。昨年までチーフメカニックを務めていた藤沢氏が独立したため、Jhaレーシングの工場長を務める井場氏が担当となった。「木曜日に転倒してしまったけれど、素早く修復してくれた。その思いに応えるためにもコースレコードを更新したかった」と言う仲城が、レコードには届かなかったも

の、ただ一人2分0秒台に入れてポールポジションを獲得した。「レースはスタートからガンガンいくつもり。若いライダーも出てきているので、彼らが世界に行くためにも、ボクがいいカベとなって、それを越えていって欲しい」とコメントした。藤沢氏が率いるFRSには、GP250クラスから徳留真紀が移籍。全日本デビューとなる富沢祥也と2台体制となり、Jhaレーシングとのガチンコ対決にも注目が集まるところ。徳留は、このレースウィークになって125に乗ったため、まだまだというところだが、ルーキーの富沢が予選2番手につける健闘を見せた。

昨年、ルーキー・オブ・ザ・イヤーを獲得した中上貴晶は、MotoGPアカデミーに選ばれ、何かと話題に事欠かない。今年は、ハルク・プロのエースライダーとして一気にタイトル獲りに挑むが、今回はマシンセッティング苦戦しながらも予選4番手につけ、しっかりフロントロウに並んだ。中上と富沢は、ミニバイク時代からのライバル。中上が一足早くステップアップしてきたが、同じ土俵に立ち、これからどんな戦いを繰り広げていくか楽しみところだ。

予選タイムを見れば仲城が一人旅となる可能性が高い。しかし、決勝になれば菊池を始め他のライダーもマシンをまとめてくるだろう。勢いのあるティーンズライダー、世界帰りの葛原稔永、着実に力をつけている竹内吉弘、山田亮太、井上誠も混戦になればトップ争いに絡んできそう。仲城が勝てば、全日本最多勝記録を更新する26勝目となる。2006年シーズンの開幕戦は、歴史に残る一戦となりそう。

[佐藤 寿宏]

写真(上):仲城英幸 (下):富沢祥也

SUPERBIKE SUPPORTERS



あなたの観戦スタイルにあった
4種類のパスで、
今年も国内最高峰の
ロードレースをお楽しみください。



詳しくは、
SUPERBIKE SUPPORTERS事務局
TEL : 0285-45-8465 (AM11:00~PM7:00 月曜定休)
またはオフィシャルファンサイト superbike.jp まで

EVENT INFORMATION

11:10~11:25 ライダートークショー

決勝レース直前のライダーたちが生の声を聞かせてくれる。トークショーを見てからレースを見れば、楽しさも倍増するかも!?

- 場所: グランドスタンドプラザ特設ステージ
- 出演予定ライダー: 伊藤真一、中須賀克行、柳川明、秋吉弘亮

10:00~10:30/15:00~15:30 キャンギャルオンステージ

2006年シーズン最初のキャンギャルオンステージ。
新しいシーズンの開幕を告げる笑顔をチェックしよう!

- 場所: グランドスタンドプラザ特設ステージ

12:20~13:15 ピットウォーク

ライダーやマシン、キャンギャルも間近で見られるのが、このピットウォーク。ピットウォーク終了時には、ツインリンクもてぎエンジェル デビューステージも開催予定。ピットウォーク参加希望者は観戦券とは別に、ピットウォーク券が必要となります。

レース終了後 サークットクルージング

全日本ロードレース恒例の先導付きサーキット2輪体験走行。オートバイで来場された方なら誰でも参加可能。先導車両に続いて、ゆっくりとロードコースを1周パレード。

- 集合: 16:45 スーパースピードウェイ特設2輪駐車場

※走行無料・原付以上・タンデム可能(タンデム可能なオートバイのみ)

※イベントの詳細はインフォメーションセンターでご確認ください。
※イベント内容・出演ライダー等は変更、中止されることがあります。

GP-MONO



今シーズンより全日本格式となる入門クラス。4ストローク 250cc単気筒エンジンをGP125クラスのフレームに搭載するという、ローコスト、イコールドレインションをコンセプトとした、入門者でも参加しやすく適度なパフォーマンスを持っているマシンによって争われる。ティーンエイジャーからオーバー40まで、幅広いライダーが純粋に腕を競うところが魅力。次代のライダーを発掘するのも面白いだろう。

写真:ポールポジションの山下祐

公式予選結果 ●決勝スタート/16:05~(8周)

Pos	No.	Name	Time	Team
1	51	山下 祐	2'08.162	ZBユビクツR、PLUSONE
2	2	森 隆嘉	2'08.559	KRS&PLUS ONE
3	15	古川 真一	2'09.171	チームライディングスポーツ
4	10	藤崎 直之	2'09.196	チームスガヤ・PILOTA
5	7	斎藤 一輝	2'09.951	ケンツJトラストスズキ
6	3	赤間 清	2'10.040	CLUB HARC-PRO.
7	99	平石 理	2'10.041	レーシングチーム ハニービー
8	9	高橋 哲也	2'11.049	ウイニングラン
9	13	阿部 徹郎	2'11.623	あべスビ・ヤマハ&セルコホーム
10	25	榊原 徹	2'11.890	ZIPBIKE豊橋ユビクツR
11	40	小山 隆浩	2'12.126	18 GARAGE RACING TEAM
12	11	岡田 義治	2'13.203	MRF&RH松島
13	56	桜澤 雄太	2'13.526	ウルフマン&Tヨシハル&鉄馬
14	14	田中 敬秀	2'13.674	MRF&RH松島フトレグプース
15	55	吉田 光弘	2'14.195	Team LIFE・ドリーム
16	39	法月 多嘉夫	2'15.381	MARS&OMEGA&ベアー
17	37	手塚 隆司	2'18.102	ウルフマンチームヨシハル鉄馬
18	26	福岡 大吾	2'18.241	M・A・R・S&KDC
19	36	織田 道武	2'18.450	パワーバイレーシング
20	38	安川 澄江	2'18.774	ビルドワークス&MHマツト

ミニバイクから世界GPまで
ロードレースのすべてがここにある

RIDING SPORT
SINCE 1982
毎月24日発売

2006年5月号<No.280>は好評発売中!

株式会社ニュース出版

EXCITING
ROADSPORTS
MAGAZINE
CYCLE SOUNDS

月刊サイクルサウンズは
毎月24日発売

発行/株式会社ジック 発売/株式会社山海堂

2006 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第1戦 スーパーバイクレース in もてぎ
GP125 Class Starting Grid

●予選日:天候/晴れ 路面/ドライ ●決勝コースイン/10:05 スタート/10:20(16周)

1	2'00.984 2 仲城 英幸 RS125R	2	2'01.746 48 富沢 祥也 RS125	3	2'02.345 5 竹内 吉弘 RS125R	4	2'02.432 73 中上 貴晶 RS125R
5	2'02.517 1 菊池 寛幸 RS125R	6	2'02.520 8 山田 亮太 RS125	7	2'02.682 92 葛原 稔永 RS125	8	2'02.843 12 井上 誠 RS125
9	2'02.901 32 渡辺 一馬 RS125R	10	2'03.029 3 井手 敏男 TZ125	11	2'03.379 14 岩田 裕臣 RS125R	12	2'03.732 21 古市 右京 RS125R
13	2'03.762 53 木口 郁瑠 RS125R	14	2'03.764 17 大石 義次 TZ125	15	2'04.008 61 並井 悠太 TZ125	16	2'04.034 72 水野 那由太 TZ125
17	2'04.192 20 菅谷 慎一 RS125	18	2'04.319 18 東 幸寛 RS125R	19	2'04.344 25 山内 隆史 NER125	20	2'04.347 36 徳留 真紀 RS125
21	2'04.353 30 小磯 栄 RS125	22	2'04.480 28 國吉 基寛 RS125R	23	2'04.560 38 天野 邦博 RS125	24	2'04.567 56 加世 昇大 RS125
25	2'04.577 52 浪平 伊織 RS125R	26	2'04.692 7 山本 武宏 RS125R	27	2'04.696 19 中村 貴紀 RS125R	28	2'04.735 59 石川 学衛 RS125
29	2'04.818 39 加藤 洋治 RS125R	30	2'04.868 37 長谷川 稔 RS125R	31	2'04.989 15 花房 一樹 RS125R	32	2'05.055 23 船田 英生 RS125R
33	2'05.115 40 人見 研吾 RS125	34	2'05.436 31 加藤 雄資 RS125R	35	2'05.522 88 石本 大河 RS125R	36	2'05.602 46 福岡 雄介 RS125
37	2'05.873 51 関野 洋樹 RS125R	38	2'05.886 45 丸山 美由貴 RS125	39	2'06.169 43 柳澤 弘道 RS125R	40	2'06.223 93 内田 修司 RS125R

2006 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第1戦 スーパーバイクレース in もてぎ
ST600 Class Starting Grid

●予選日:天候/晴れ 路面/ドライ ●決勝コースイン/11:10 スタート/11:25(18周)

1	1'55.926 1 安田 毅史 CBR600RR	2	1'56.398 76 渡辺 篤 GSX-R600K6	3	1'56.425 39 酒井 大作 ZX-6RR	4	1'56.814 12 宮崎 敦 YZF-R6
5	1'56.838 9 大崎 誠之 YZFR-6	6	1'56.937 11 奥野 正雄 YZF-R6	7	1'57.316 13 稲垣 誠 CBR600	8	1'57.359 3 辻村 猛 CBR600RR
9	1'57.564 7 高橋 英倫 CBR600RR	10	1'57.790 99 野田 弘樹 CBR600RR	11	1'57.857 62 藤原 儀彦 YZF-R6	12	1'57.931 33 波多野 祐樹 GSX-R600K6
13	1'57.964 16 生形 秀之 GSX-R600K6	14	1'58.029 50 加藤 直樹 CBR600RR	15	1'58.145 53 須貝 義行 749R	16	1'58.311 37 佐藤 裕児 YZF-R6
17	1'58.333 30 津田 拓也 CBR600RR	18	1'58.360 22 山本 琢磨 ZX-6RR	19	1'58.394 73 森新 CBR600RR	20	1'58.508 5 寺本 幸司 GSX-R600K6
21	1'58.674 18 東浦 正周 YZF-R6	22	1'58.711 52 野崎 俊宏 CBR600RR	23	1'58.737 75 黒川 武彦 CBR600RR	24	1'58.737 34 岩田 悟 CBR600RR
25	1'58.818 54 井上 哲悟 ZX-6RR	26	1'58.855 36 清水 郁巳 CBR600RR	27	1'58.856 70 中山 真太郎 CBR600RR	28	1'58.887 40 津田 一磨 CBR600RR
29	1'59.040 27 奥田 貴哉 GSX-R600	30	1'59.170 45 大木 崇行 CBR600RR	31	1'59.208 32 的場 浩晃 CBR600RR	32	1'59.283 28 三瓶 陽介 GSX-R600K6
33	1'59.303 46 原田 貴史 CBR600RR	34	1'59.345 64 和田 憲史郎 GSX-R600K6	35	1'59.371 38 清水 直樹 ZX-6RR	36	1'59.465 35 松井 秀樹 CBR600RR
37	1'59.486 31 児玉 勇太 CBR600RR	38	1'59.582 88 須磨 真仁 CBR600RR	39	1'59.652 23 藤下 和衛 CBR600RR	40	1'59.699 56 小室 旭 ZX-6RR

2006 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第1戦 スーパーバイクレース in もてぎ
JSB1000 Class Starting Grid

●予選日:天候/晴れ 路面/ドライ ●決勝コースイン/14:40 スタート/14:55(20周)

1	1'50.852 76 渡辺 篤 GSX-1000K6	2	1'50.947 54 徳留 和樹 CBR1000RR	3	1'50.961 11 秋吉 耕佑 GSX-1000K6	4	1'51.022 2 山口 辰也 CBR1000RR
5	1'51.472 12 中須賀 克行 YZF-R1	6	1'51.654 1 伊藤 真一 CBR1000RR	7	1'51.856 87 柳川 明 ZX-10R	8	1'52.638 5 辻村 猛 CBR1000RR
9	1'52.933 48 手島 雄介 CBR1000RR	10	1'52.977 9 亀谷 長純 CBR1000RR	11	1'53.390 10 小西 良輝 CBR1000RR	12	1'53.456 55 出口 修 CBR1000RR
13	1'53.795 13 須貝 義行 999R	14	1'54.089 14 今野 由寛 GSX-1000K6	15	1'54.422 15 川瀬 裕昌 GSX-R1000	16	1'54.621 26 山中正之 CBR1000RR
17	1'54.938 64 川上 智彦 CBR1000RR	18	1'55.042 36 高橋 孝臣 CBR1000RR	19	1'55.209 31 森井 威綱 CBR1000RR	20	1'55.386 72 Alex Camier CBR1000RR
21	1'55.454 33 高田 遼人 CBR1000RR	22	1'55.477 19 畠山 泰昌 CBR1000RR	23	1'55.487 29 荻田 庄平 ZX-10R	24	1'56.498 66 澤村 元章 YZF-R1
25	1'56.531 41 野寄 真二 CBR1000RR	26	1'56.625 52 柚木 伸介 CBR1000RR	27	1'56.856 47 本田 晃司 GSX-R1000	28	1'57.942 37 掛川 啓一 CBR1000RR
29	1'58.210 51 永坂 幸一 CBR1000RR	30	1'58.718 91 中山 智博 ZX-10R	31	1'58.768 38 原田 洋孝 ZX-10R	32	1'58.846 77 Joao Fernandes GSX-R1000
33	1'59.010 62 向井 伸之 GSX-1000K5	34	1'59.229 74 中村 知雅 CBR1000RR	35	2'00.872 40 小林 哲朗 GSXR-1000	36	2'02.567 43 横張 好弘 YZF-R1

2006 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第1戦 スーパーバイクレース in もてぎ
GP250 Class Starting Grid

●予選日:天候/晴れ 路面/ドライ ●決勝コースイン/13:30 スタート/13:45(18周)

1	1'54.641 2 横江 竜司 TZ250	2	1'56.041 4 及川 誠人 TZ250	3	1'56.108 72 高橋 巧 RBB250	4	1'56.280 41 宇井 陽一 TZ250
5	1'56.805 66 小林 龍太 RBB250	6	1'57.143 7 R.WILAIROT RS250R	7	1'57.310 55 高橋 江紀 RS250R	8	1'57.841 6 秋谷 守 TZ250
9	1'57.852 56 山崎 都 TZ250	10	1'58.263 16 藤田 浩司 TZ250	11	1'58.492 44 秋田 貴志 TZ250	12	1'58.667 11 石井 春希 TZ250
13	1'58.744 12 櫻井 大幸 RS-250R	14	1'58.820 19 岩井 耕治 TZ250	15	1'59.073 10 松井 剛 TZ250	16	1'59.380 51 泉本 真宏 TZ250
17	1'59.471 15 豊田 浩史 TZ250	18	1'59.820 24 磯合 晋一 TZ250	19	2'00.051 38 濱本 裕基 TZ250	20	2'00.505 13 及川 玲 TZ250
21	2'01.142 34 小口 理 TZ250	22	2'01.393 76 伊藤 勇樹 TZ250	23	2'02.743 47 小口 亘 TZ250	24	2'02.811 27 高田 明 TZ250